

**Seminar Renewable Energy and Energy Efficient Building at the ICU**

Time: January 6<sup>th</sup> 2015 (Tuesday) ▪ 13:50-15:00

Place: **Room N-232** (ICU Science Hall, First Floor, North Wing)

Title: 「シェーナウの想い～自然エネルギー社会を子どもたちに～」 (映□, 60分)

Text: <http://www.geocities.jp/naturalenergysociety/eiganaiyou.html>



Image: <http://www.otsukishoten.co.jp/news/n4434.html>

この映画は、ドイツ南西部、黒い森の中にある小さなまちシェーナウ市の住民グループが、チェルノブイリ原発事故をきっかけに「自然エネルギー社会を子どもたちに」という想いから、ドイツ史上初の「市民の市民による市民のための」電力供給会社を誕生させるまでの軌跡を綴るドキュメンタリーです。

**<ストーリー>** ドイツ南西部にあるシェーナウ市。2500人の小さなまち。チェルノブイリ原発事故の影響は、ここシェーナウ市にもおよびました。

そこでシェーナウ市の親たち数人が子どもたちを守るため「原子力のない未来のため 親の会」(親の会)を結成しました。

まず始めたのが、街中に放射能から身を守るための情報を発信する情報スタンドを設置することでした。また原発依存から脱却するためには、エネルギー使用の意識変化も重要であると考え「節電キャンペーン」や「節電コンテスト」を行いました。

さらに住民グループは、シェーナウ市と独占的に契約を結んでいたラインフェルデン電力会社(KWR)に対し、原発に頼らない電力供給、エコ電力の買い取り価格の引き上げ、そして節電を促すために基本料金を引き下げ使用料金を引き上げる比例料金制度を提案しますが、冷たくあしらわれてしまいました。

そこで住民グループ(親の会)は「それなら自分たちで電力会社をつくってしまおう！」と立ち上がり、シェーナウ電力会社(EWS: Elektrizitätswerke Schönau)を発足させます。

彼らはKWRを相手に2度にわたる住民投票を勝ち抜き、シェーナウ市の電力供給の認可を勝ち取ります。しかし、電力供給を実現するためには、当時KWRが所有していた電力網を買い取る必要がありました。

シェーナウ市との電力供給契約を失ったKWRは、この電力網の引き継ぎにあたって不当なまでに多額の価格を提示します。それでも住民グループは諦めませんでした。社会目的に積極的に融資をするGLS銀行や広告会社の無償の協力、さらには人々の善意の寄付のおかげで無事電力網を手にするに至りました。

1997年、EWSは念願の電力供給を開始します。チェルノブイリ事故をきっかけにした親の会の発足から、操業に至るまで実に10年もの歳月が流れていました。

苦労も喜びも分かち合い、皆で共に支えあい、励ましあい、そして時には息抜きもしながら、EWSで働く人たちは、今日もドイツにいるたくさんの人たちに原発に頼ることのない自然エネルギーをメインとしたエコ電力を供給しています

Anybody, especially students, are welcome. Please bring along your lunchbox.

\*Contact: Eckhard Hitzer ([hitzer@icu.ac.jp](mailto:hitzer@icu.ac.jp)) Blog: [re3buildicu.wordpress.com](http://re3buildicu.wordpress.com), Access:

<http://www.icu.ac.jp/about/access/> Campus Map (Bldg. No. 4!): <http://www.icu.ac.jp/about/campus/>

To students: All students are welcome to attend the seminar. But please note that different from the NS Forum or Funct. Science seminars, the seminar will not give you any ICU course credits.